

学校全体の取り組み

授業規律について	① 指名されてから発言させる。 ② 「はい」は一回または黙って拳手をさせる。 ③ 指名されたら「はい・立つ・です」 ④ みんなに聞こえる声の大きさを発音させる。(声のものさしの活用) ⑤ 発言している人の方を向いて聞かせる。
持ち物について	① 4月に決めた物を持ってきているのかを観察、または点検する。そして、不要な物を持ってこさせない。 ② 机の横にたくさん物をかけさせない。 ③ 道具をわすれたときには報告させる。
教室掲示について	① 教務から配布された資料に準ずる。
ノート・その他	① 日付を書かせる。 ④視覚的な効果を高めるためにICT機器を活用する。 ② 線を引くときは定規を使わせる。 ⑤授業の毎時間、書く活動を取り入れる。 ③ ノートの書き方を指導する。

評語	説明
A	設定した目標を高度に達成した。
B	設定した目標を概ね達成した。
C	設定した目標を達成するには、もう一歩である。
D	設定した目標はほとんど未達成である。

教科名	児童の実態	指導方法の改善と工夫	評価	
			2学期	3学期
国語	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『気になる記号』では、進んで記号探しに取り組んでいた。</li> <li>【事実、事象の意味を考える活動】</li> <li>・説明文が始・中・終で構成されているのは、筆者の考えを伝えやすくするためであることに気付くことができた。</li> <li>・記号の特徴から分かることを考える活動では、多くの児童が進んで活動していたが、手が止まる児童もいた。</li> </ul>	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の興味や関心を大切にしながら、活動を進めるようにする。</li> <li>【事実、事象の意味を考える活動】</li> <li>・モデル文を示し、考えるための手立てを一つずつ段階的に提示する。手が止まってしまう児童には、教師が個別に声をかける。また、周りの児童に、ミニ先生となり、アドバイスを促すよう促す。</li> </ul>	B	B
	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『きつつきの商売』では、叙述に合わせた音読をすることができた。</li> <li>・約2割の児童は、声の大きさに課題が残った。</li> <li>【書く】</li> <li>・担任が声をかけることで、全ての児童が、段落に気を付けて報告する文章を書くことができた。</li> <li>・学習した漢字をひらがなで書いてしまう児童もいた。</li> <li>【発表】</li> <li>『よい聞き手になるう』では、多くの児童が声の大きさを意識して、聞き手に伝わりやすい声量で発表をすることができた。</li> <li>・発表時の表情、発表するスピード、声の抑揚、間の取り方に課題のある児童が多い。</li> </ul>	<p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の時間をできる限り毎日設け、音読の機会を確保する。</li> <li>・場に適した声の大きさを、「声のものさし」をもとに考えさせる。</li> <li>【書く】</li> <li>・段落を意識して書くよう、繰り返し指導をする。</li> <li>・平仮名の多い文と漢字の多い文とを読み比べたり、既習漢字を使って文章を書ける児童を称賛したりしていく。</li> <li>・既習の漢字を積極的に使うよう、日頃から声をかける。</li> <li>【発表】</li> <li>・声の大きさを第一に指導をし、適切な声量で発表できるようになった児童から、段階的に、読むスピードや強弱などについて指導を積み重ねていく。</li> </ul>	B	B
社会	<p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・府中市の地図を読み取る活動を通し、ハケ上とハケ下の土地の使い方の違いに気付いたり、交通の様子について考えたりすることができた。</li> <li>【調査、観察、見学】</li> <li>・屋上から学校のまわりの様子を観察した際、記録を十分にできていない児童が目立った。</li> <li>・社会科見学では、事前に立てた課題をもとに、メモを取りながら見学をする児童がほとんどだった。</li> <li>【表現】</li> <li>・社会科見学新聞作りでは、全ての児童が、見出しを決め、学んだことを見出しごとにまとめることができた。</li> <li>・担任や友達の声かけがないと、作業が止まってしまう児童もいた。</li> </ul>	<p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意味を考えさせる前に、事実、事象を確実に押さえるようにする。その上で、その事実、事象から何が分かるかについて考えさせる。</li> <li>・考えたこと、気付いたことを箇条書きで書かせる。</li> <li>【調査、観察、見学】</li> <li>・観察、見学の目的意識を明確にもたせる。</li> <li>・記録のしかたを事前に指導する。</li> <li>・記録のための時間を確保する。</li> <li>【表現】</li> <li>・完成モデルを事前に示したり、見出しごとに書き方を説明したりするなど、児童が見通しをもって表現することができるようにする。</li> </ul>	B	B
	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に伝えたいことは何かを考えながら社会科見学新聞作りに取り組むことのできた児童は少なかった。</li> <li>・地域の地図作りでは、土地の様子や店の場所などを、友達同士で伝え合うことができた。</li> </ul>	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合いの活動の前に、どのように伝えればよいかを具体的に示したり、自分の考えを書かせたりする。</li> <li>・隣同士→小グループ→学級と、徐々に伝え合う集団の輪を広げ、多くの人に自分の考えを伝えることができるようにする。</li> </ul>	B	B
算数	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で新しく学ぶことは何であるかを、前時までの学習内容をもとに、考えることのできる児童が多い。</li> <li>・身近なことを算数の場面と結び付け、問題を見つけていく力は比較的弱い。</li> <li>【問題解決する活動】</li> <li>・見通しをもって問題解決に取り組むことができる児童と、そうでない児童とで、取り組みに差がある。</li> <li>・自力解決の場面では、一つの解決方法を見つけたことで満足してしまう児童が多い。</li> <li>【表現】</li> <li>・自分の考えをもってはいるが、言葉や式、図や絵等を用いて、自分の考えを説明する児童は少ない。</li> </ul>	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題提起の場面において、身近な生活場面と結び付けることができるような問題を設定する。</li> <li>【問題解決する活動】</li> <li>・少人数指導のコースに応じて、自力解決の場面における助言の量を加減する。</li> <li>・自力解決の場面で止まってしまう児童には、教員が声をかけをしたり、周りの児童にミニ先生となりアドバイスを促すよう促したりしていく。</li> <li>・児童の考えを認めた上で、新たな考えを書くよう促す。</li> <li>【表現】</li> <li>・ノート指導を充実させ、自分の考えを表現するための方法を、その場に応じて具体的に指導させる。</li> </ul>	B	B
	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを順序立てて説明することのできる児童とそうでない児童とで差がある。</li> </ul>	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まず」「次に」といった順序を表す言葉を使う、図や表を指示しながら説明をする等、少人数指導のコースに合わせて、段階的に指導を行う。</li> </ul>	B	B

理科	思考力・判断力・表現力	<p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昆虫のすみかについて考える学習では、昆虫の食べ物やかくれる場所との関係について考え、つながりに気付くことができた。</li> </ul> <p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『春のしぜんにとび出そう』では、多くの児童が春に見られる植物や生き物を見つけ、観察することができた。</li> <li>何を観察すればよいかわからず、中々取り組みない児童もいた。</li> <li>ホウセンカの観察では、多くの児童が虫めがねを使いながら、色、大きさ、形に気を付けながら観察カードをかくことができた。</li> </ul>	<p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意味を考えさせる前に、事実、事象を確実に押さえるようにする。その上で、そこから何が分かるかについて考えさせる。(関係付け)</li> </ul> <p>【観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何を観察すればよいか分からずにいる児童には、観察する視点を示す。</li> <li>色、大きさ、形を意識して観察するよう、引き続き指導をしていく。観察しやすい対象物を人数に準じて用意する。</li> </ul>	A	A
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『春のしぜんにとび出そう』では、自分が見つけた春の植物や動物について、友達と伝え合うことができた。</li> <li>昆虫のすみかについて考える学習では、気付いたことを発表し合い、考えを深め合うことができた。</li> </ul>	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝え合いの活動の前に、どのように伝えればよいかを具体的に示したり、自分の考えを書かせたりする。</li> <li>ペア→グループ→学級と、徐々に伝え合う集団の輪を広げ、多くの人に自分の考えを伝えることができるようにする。</li> </ul>	B	B
音楽	思考力・判断力・表現力	<p>【音楽表現の創意工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音色やフレーズに気を付けたり、自分の思いや意図を表現に生かしたりする児童は少ない。</li> <li>自分たちで音楽をつくったり、表現を工夫したりする活動の経験が少ない。</li> </ul> <p>【音楽表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱については、のびやかな声で歌うことができる。</li> <li>リコーダーでは運指、息のコントロール、タンギングの定着に差がある。</li> </ul>	<p>【音楽表現の創意工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>範囲や範奏を聴かせる際に、音色やフレーズ、歌詞の内容に気付かせるような発問や投げかけをして、工夫につながる指導をする。</li> <li>ペアやグループで音楽をつくったり、表現を工夫したりする問題解決型の学習スタイルを設定する。</li> </ul> <p>【音楽表現の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱については話し声と歌声を意識させ、曲にあった発声で歌うように指導する。リコーダーは個別指導の場を設け、確認・指導を図る。</li> </ul>	C	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見交流の場では、言葉で伝えられる児童とそうでない児童の差がみられる。</li> <li>発表や意見を聞く際に、相手の方を見ることが徹底できていない。</li> </ul>	<p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞では、身体表現などで音楽の特徴をとらえて聴くように促し、感じ取ったことや気が付いたことを言葉で表す活動を短時間でも多く設定する。</li> <li>聴く態度についても指導し、徹底を図る。</li> </ul>	B	B
図工	基礎的・基本的な知識・技能	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲・態度は高く、どの題材にも興味をもって積極的に取り組む児童が多い。</li> </ul> <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりに楽しくイメージをして、形に表そうと工夫することができる。</li> <li>作品制作の進捗に差が見られるので、遅れてしまう児童への声かけが必要である。</li> </ul> <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具や材料の使い方を正しく理解している児童が多いが、制作内容自体を理解していない児童が数人いる。周りの様子に合わせてやるべきことを把握している状態である。</li> <li>個別に助言や指導が必要とする児童もいるため個別に支援が必要である。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図工室の使い方、道具・用具の使い方を確認して、ルールを徹底していく。</li> <li>制作が遅れがちな児童が苦手意識をもってしまわないように簡単な表現活動や造形遊びを経験させ、多様な表現に関心をもち、表現の面白さを感じることができるようになっていきたい。</li> <li>関心・意欲・態度ともに高いので今後もこのまま持続できるように題材や授業内容を工夫していきたい。</li> </ul> <p>【発想・構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い表現が身につくように、様々な材料に触れさせる。</li> <li>多様な発想の作品を紹介し、発想の幅がさらに広がるようにする。</li> </ul> <p>【創造的な技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>板書、図版、電子黒板などを活用し、制作工程を明記し視覚で確認できるようにする。</li> <li>基本的な用具の使い方などの技能を習得できるように個別に支援する。</li> <li>班で教え合う習慣を身に付けるよう、協力するための声かけを行う。</li> </ul>	B	B
	言語活動	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のよいところに気付き、意欲的に伝えようとするが、自分の言葉でそれらを伝えることが難しい児童が多い。</li> </ul>	<p>【鑑賞】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作の各段階で、交流の時間をとり、自分や他人のよさに気付くことができるように、計画的に鑑賞の機会を取り入れる。</li> </ul>	B	B
体育	思考力・判断力・表現力	<p>【問題解決する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バトンパスをより上手に行うためにはどのようにすればよいかを、チームの友達と相談しながら学習に取り組むことができた。</li> <li>『鉄棒運動』の学習では、自ら目標を立て、友達と協力しながら技に挑戦することができた。</li> </ul>	<p>【問題解決する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動のポイントを適宜確認し、問題解決のため道筋を考えさせる。上手にできたグループを手本にして、よいところや改善点を見つける活動をする。</li> </ul>	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『リレー』や『鉄棒運動』では、言葉でのアドバイスだけでなく、実際に運動して見せながら教え合いをする姿が見られた。</li> <li>どのように伝えればよいか分からず、困っている様子の児童もいた。</li> </ul>	<p>【伝える】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教え合いの際のポイントを、児童に明確に伝える。</li> <li>教え合いを上手にできている児童を称賛し、どのように教え合いをしていたかを伝える機会を設ける。</li> </ul>	B	B
道徳	思考力・判断力・表現力	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童が、友達の考えや教師の話を聞き感じたことや、これからの生活について考えたことを、ワークシートに書くことができた。</li> </ul>	<p>【表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えをもつための時間を確保する。</li> <li>児童の発言を、板書で共有できるようにする。</li> </ul>	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの考えが思い浮かばなかったり、何を書けばよいか分からなかったりしてしまい、中々書き進められない児童がいた。</li> </ul> <p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えはもっているが、意欲的に発表をしようとする児童は多くなく、発表する児童に限られている。</li> </ul>	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>考えが思い浮かばない児童には、自分だったらどうかということを考えさせる。</li> <li>何について考える時間であることを明確に伝える。</li> </ul> <p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアや小グループなど、近くの席の児童と意見を交流する時間を設け、全員が自分の意見を発信できるようにする。</li> </ul>	B	B
総合的な学習の時間	思考力・判断力・表現力	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高尾山の生き物調べでは、すべての児童が、自分なりの課題を見つけることができた。</li> </ul> <p>【調査、観察、見学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新田川緑地の生き物調べでは、意欲的に採集・観察に取り組む児童が多かった。</li> <li>何をどのように書けばよいか分からず、手が止まってしまう児童もいた。</li> </ul> <p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新田川緑地の見学を通し、分かったこと、気付いたことについて考えることができた。</li> </ul>	<p>【問題を発見、把握する活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような課題を立てることができているかというアイデアを全員で考え、共通認識をもった上で、一人一人の学習問題をもたせる。</li> </ul> <p>【調査、観察、見学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に決めた課題をもとに、調査、観察を行わせる。</li> <li>新聞や観察カードをかかせる際は、どのようにかけばよいかを事前に指導する。</li> </ul> <p>【事実、事象の意味を考える活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「どうしてかな」等、理由を考えさせるような個別の声かけを多用する。</li> </ul>	B	B
	言語能力の実態と言語活動の改善・工夫	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約9割の児童は、見学してきたことや本で調べたことを、新聞やカードにまとめることができた。</li> </ul> <p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞作りを通し、自分が気付いたことや本で調べて分かったことなどを、友達と伝え合うことができた。</li> </ul>	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き進められない児童には、友達の新聞等をモデルにして、書く内容の視点を提示する。</li> </ul> <p>【伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達の考えを交流することができるよう、ペアやグループを活用して活動をする。</li> </ul>	B	B